

安城市市民アンケート調査報告書
(概要版)

令和 3 年 1 0 月

1 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、市の取組みに対する市民意識を調査することで、第8次安城市総合計画の進捗状況を把握するとともに、現在抱える問題や課題を洗い出し、総合計画の最終年である令和5年度の目標値達成状況を検証し、今後の取組みを検討するための基礎資料を得ることを目的とします。

(2) 調査対象及び調査方法

- ・調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- ・標本数：3,000人
- ・抽出方法：無作為抽出法
- ・調査方法：郵送配布、郵送回収・WEB回収
- ・調査時期：令和3年7月9日（金）～令和3年7月28日（水）

(3) 調査票の回収状況

- ・配布数 3,000件
- ・有効回答数 1,720件（57.3%）

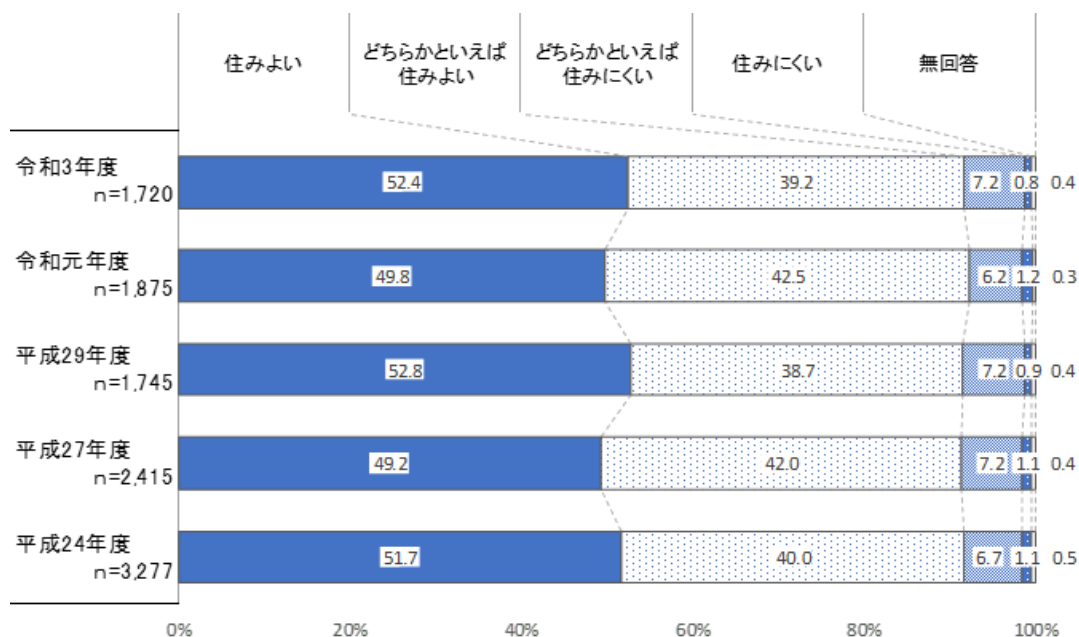
(4) 調査項目

- ①調査対象者（回答者）の属性
- ②安城市の住みやすさについて
- ③これまでの安城市の取組みに対する満足度
- ④今後、安城市が取り組むことの重要性
- ⑤日常生活について

2 調査結果

(1) 住みやすさについて

- ✓ 過半数（52.4%）の人が「住みよい」としています。
- ✓ 9割以上（91.6%）の人が“住みやすい”と思っています。



<図1>安城市の住みやすさ（過去に実施した調査との比較）

安城市の住みやすさについて、全体で見ると「住みよい」が52.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば住みよい」が39.2%と、9割以上（91.6%）の人が“住みやすい”（「住みよい」＋「どちらかといえば住みよい」）としています。一方、“住みにくい”（「住みにくい」＋「どちらかといえば住みにくい」）とした人は8.0%と1割未満となっています。

過去に実施した調査と比較すると、令和元年度調査と比べて「住みよい」とした人の割合は2.6ポイント増加（49.8%⇒52.4%）し、総合的な“住みやすい”とした人の割合は0.7ポイント減少（92.3%⇒91.6%）しています。一方、“住みにくい”とした人の割合は0.6ポイント増加（7.4%⇒8.0%）しています。

“住みにくい”と回答した人（8.0%）の理由としては、「交通の便が悪い」（61.3%）、「日常の買い物が不便である」（39.4%）、「娯楽施設が少ない」（19.0%）などが挙げられています。

(2) 安城市の取組みについての評価【満足度】

<評価平均得点の算出方法>

1人1項目あたりの評価得点分析は、+3～-3の範囲となり、この評価得点全体の平均を算出し、それぞれの評価の指標としました。

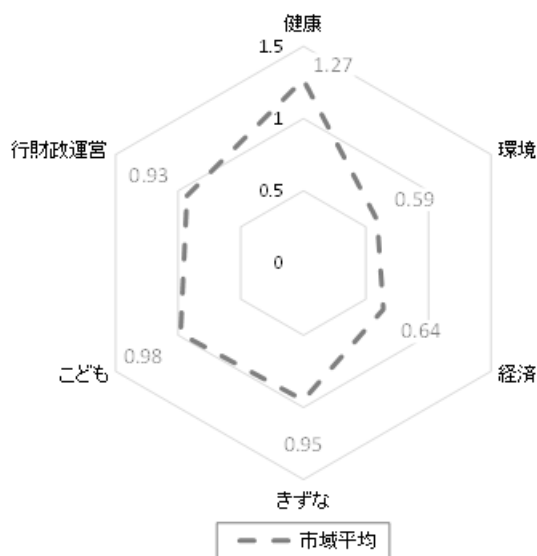
算出された評価平均得点は+3に近いほど満足（重要）であることを表し、-3に近いほど不満（重要でない）であることを表しています。

$$\frac{\text{「非常に満足」} \times 3 + \text{「満足」} \times 2 + \text{「やや満足」} \times 1 + \text{「やや不満」} \times (-1) + \text{「不満」} \times (-2) + \text{「非常に不満」} \times (-3)}{\text{「わからない」} \cdot \text{「無回答」を除く有効回答者数}$$

※重要度についても「 」内を置き換えて算出

① 分野別評価平均得点

安城市の取組みにおける満足度の評価平均得点の全体平均値は、0.84 となっています。分野別では、「健康」が1.27と最も高く、次いで「子ども」が0.98、「きずな」が0.95となっています。



<図2> 満足度分野別評価平均得点

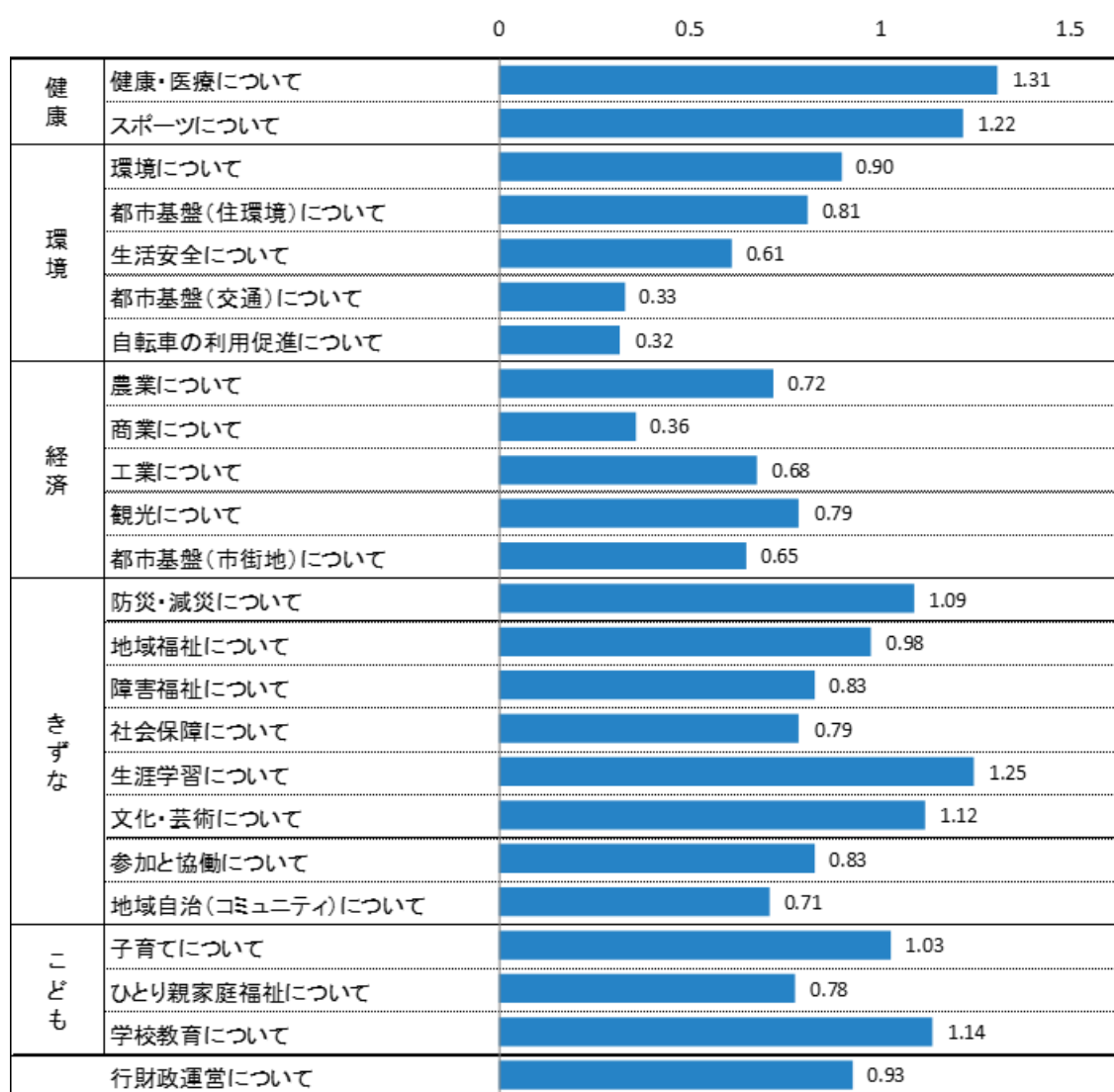
| | 全体平均 | 健康 | 環境 | 経済 | きずな | 子ども | 行政運営 |
|---------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 満足度評価 平均得点 | 0.84 | 1.27 | 0.59 | 0.64 | 0.95 | 0.98 | 0.93 |

② 項目別評価平均得点

項目別にみると、満足度の高い項目から順に「健康・医療について」(1.31)、「生涯学習について」(1.25)、「スポーツについて」(1.22)、「学校教育について」(1.14)、「文化・芸術について」(1.12)となっています。

一方、満足度が低い項目から順に「自転車の利用促進について」(0.32)、「都市基盤(交通)について」(0.33)、「商業について」(0.36)、「生活安全について」(0.61)、「都市基盤(市街地)について」(0.65)となっています。

今回の調査では、全項目の評価平均得点がプラスになっています。

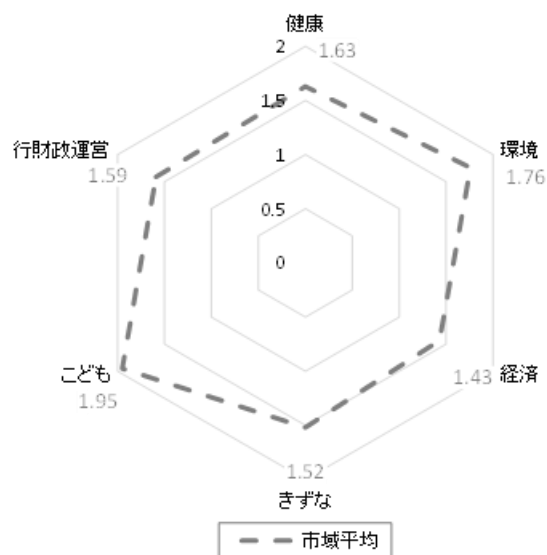


<図3> 満足度項目別評価平均得点

(3) 安城市の取り組みについての評価【重要度】

①分野別評価平均得点

安城市の今後の取り組みにおける重要度の評価平均得点の全体平均値は、1.62
 となっています。分野別では、「こども」が1.95で最も高くなっています。



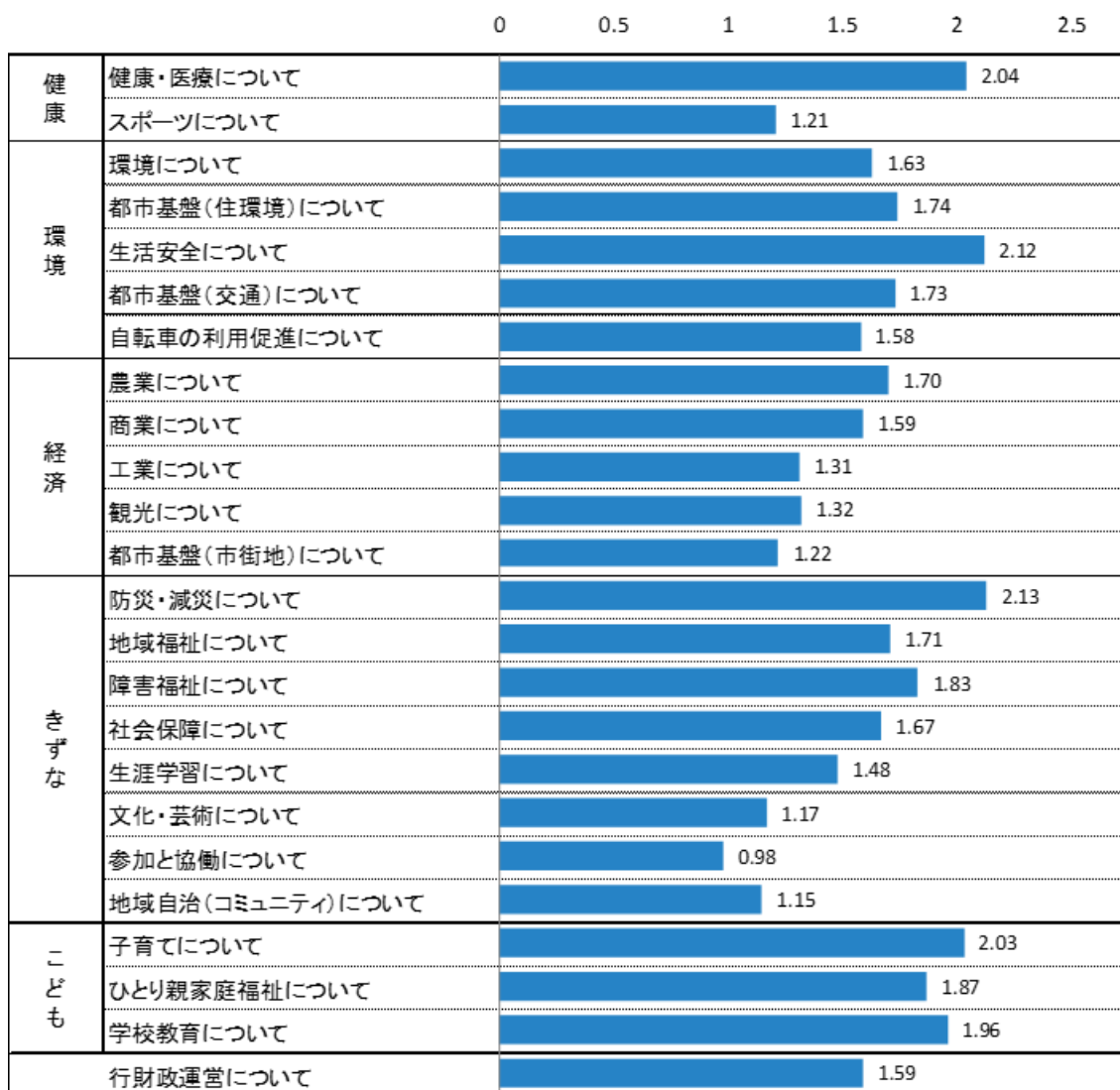
<図4>重要度分野別評価平均得点

| | 全体平均 | 健康 | 環境 | 経済 | きずな | こども | 行政運営 |
|---------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 重要度評価 平均得点 | 1.62 | 1.63 | 1.76 | 1.43 | 1.52 | 1.95 | 1.59 |

②項目別評価平均得点

項目別にみると、「防災・減災について」(2.13)が最も高く、次いで「生活安全について」(2.12)、「健康・医療について」(2.04)となっています。

一方、重要度の低い項目は「参加と協働について」(0.98)、「地域自治(コミュニティ)について」(1.15)、「文化・芸術について」(1.17)となっています。



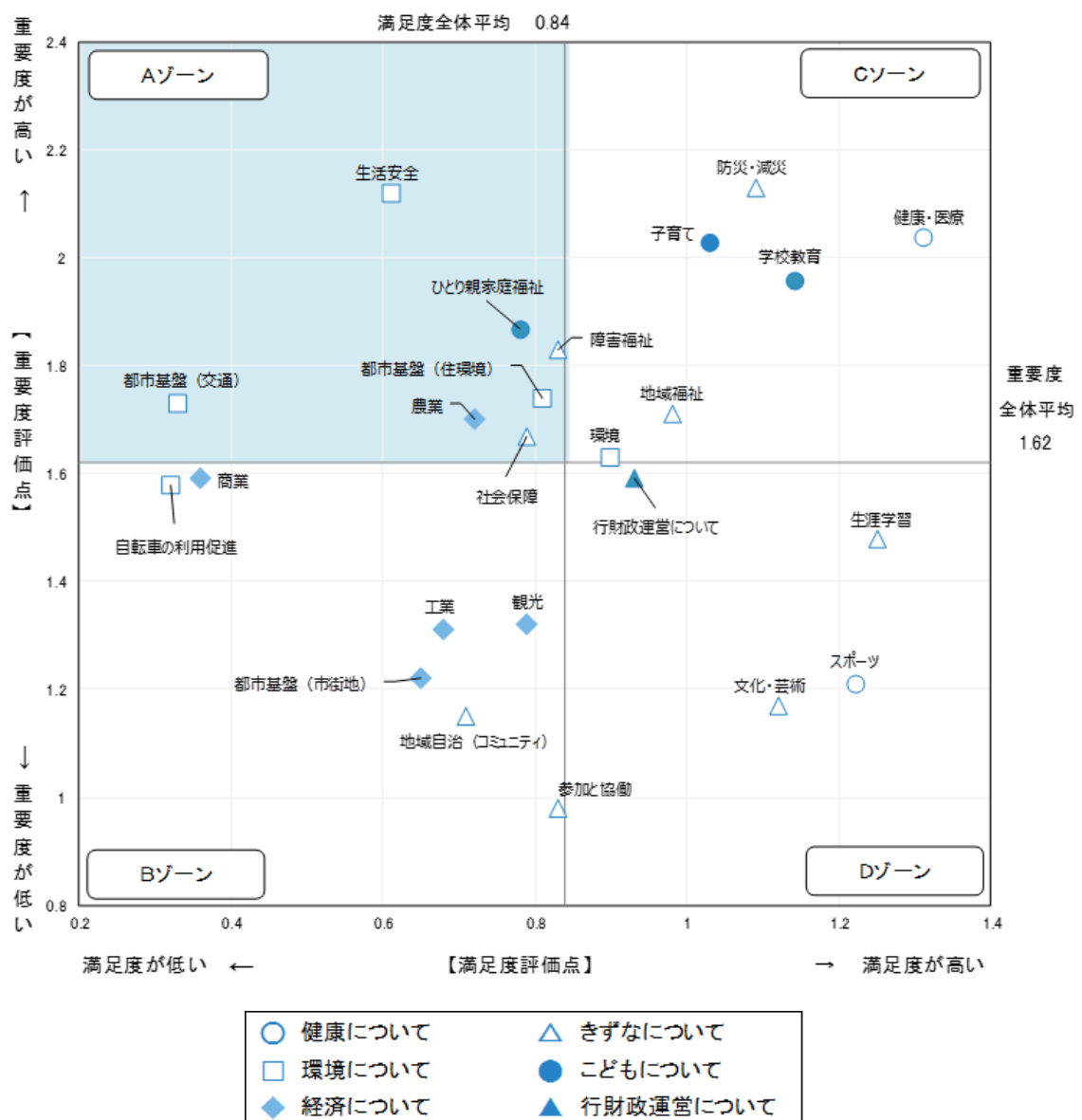
<図5>重要度項目別評価平均得点

(4) 満足度評価平均得点と重要度評価平均得点の関係分布

満足度を横軸に、重要度を縦軸にとり、6分野24項目の満足度評価平均得点と重要度評価平均得点の関係を分布図にしたものが下図です。

網掛け部分の「Aゾーン」に位置する施策項目は、《施策の必要性が十分認識され、かつ今後の取組みのさらなる推進や改善に対する市民のニーズ（期待）が高い施策項目》を示しています。

今回の調査では、今後、優先的に取り組むべき施策項目として、「生活安全について」「都市基盤（交通）について」「都市基盤（住環境）について」「ひとり親家庭福祉について」「障害福祉について」「農業について」「社会保障について」の7項目が該当しています。



<図6> 満足度評価平均得点と重要度評価平均得点の関係分布

| | |
|--|---|
| <p>【Aゾーン】 満足度：平均値より低い 重要度：平均値より高い</p> | <p>グラフ左上に位置する取組みは、施策の必要性が十分認識されているものの、取組みに対する満足度が低く、市民が最も充実を求めていると考えられます。そのため従来の取組みに改善を加え、さらなる充実を図る必要があります。</p> |
| <p>【Bゾーン】 満足度：平均値より低い 重要度：平均値より低い</p> | <p>グラフ左下に位置する取組みは、施策の必要性の認識が低く、取組みに対する満足度も低いと考えられます。そのため施策の重要性に対する理解を高めるとともに取組みの見直しや方向性などを十分検討し、満足度を上げていく必要があります。</p> |
| <p>【Cゾーン】 満足度：平均値より高い 重要度：平均値より高い</p> | <p>グラフ右上に位置する取組みは、施策の必要性が十分認識され、その取組みにも満足されていると考えられます。今後も現在の水準を維持するため、着実な取組みが求められます。</p> |
| <p>【Dゾーン】 満足度：平均値より高い 重要度：平均値より低い</p> | <p>グラフ右下に位置する取組みは、施策の必要性の認識は低く、取組みには満足されていると考えられるため、今後も現状とおりの着実な取組みが求められます。</p> |

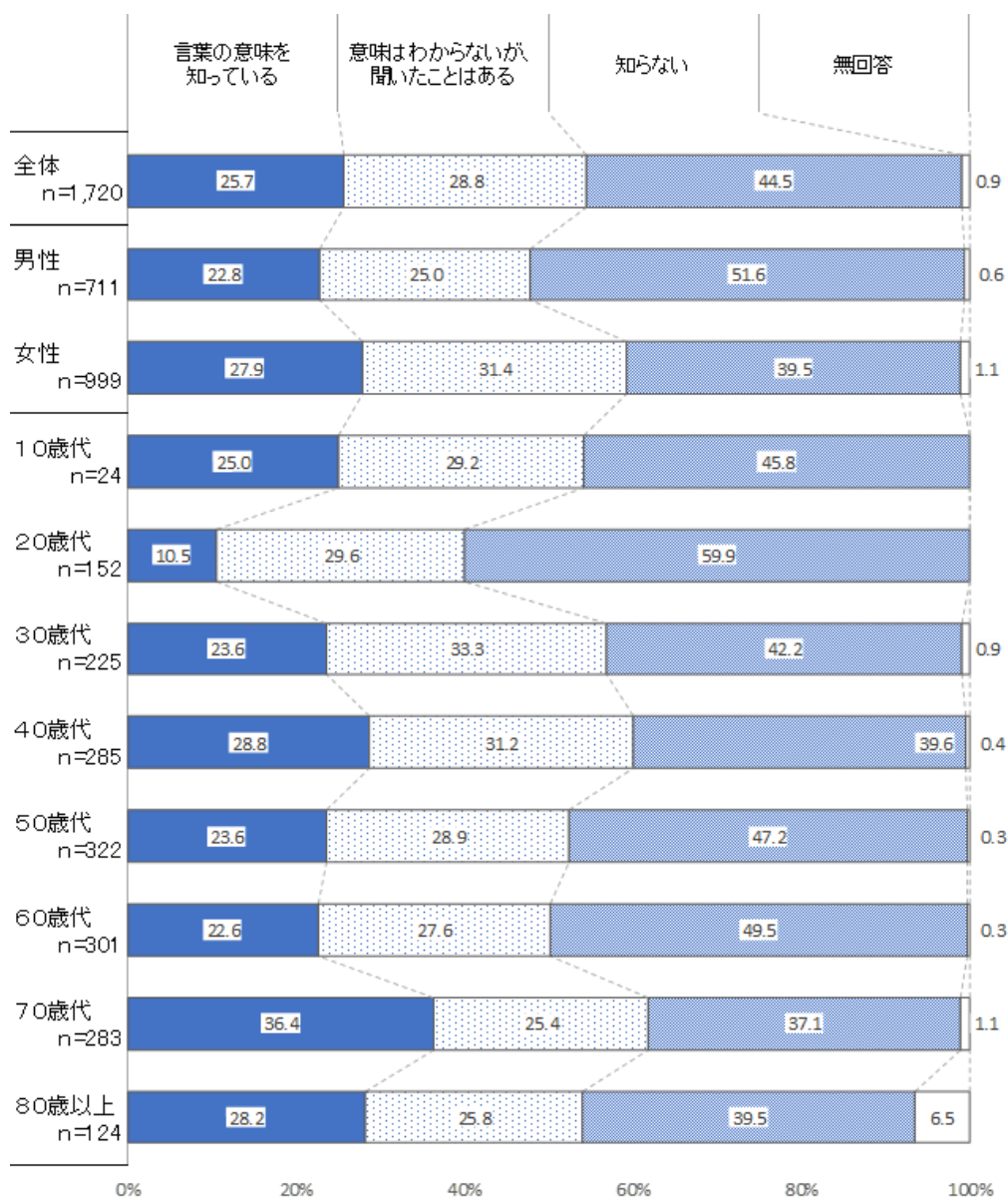
(5) 日常生活について

①「健幸」の認知度

「健幸」について、全体で見ると、「知らない」が44.5%と最も高く、次いで「意味はわからないが、聞いたことはある」(28.8%)となっています。「言葉の意味を知っている」(25.7%)と「意味はわからないが、聞いたことがある」(28.8%)をあわせた“知っている”割合は54.5%となっています。

性別で見ると、“知っている”は男性が47.8%、女性が59.3%となっており、女性の方が男性よりも高い割合となっています。

年齢別で見ると、40歳代・70歳代では、“知っている”が6割を超えています。一方で、20歳代では、4割程度と他の年齢と比べて低くなっています。



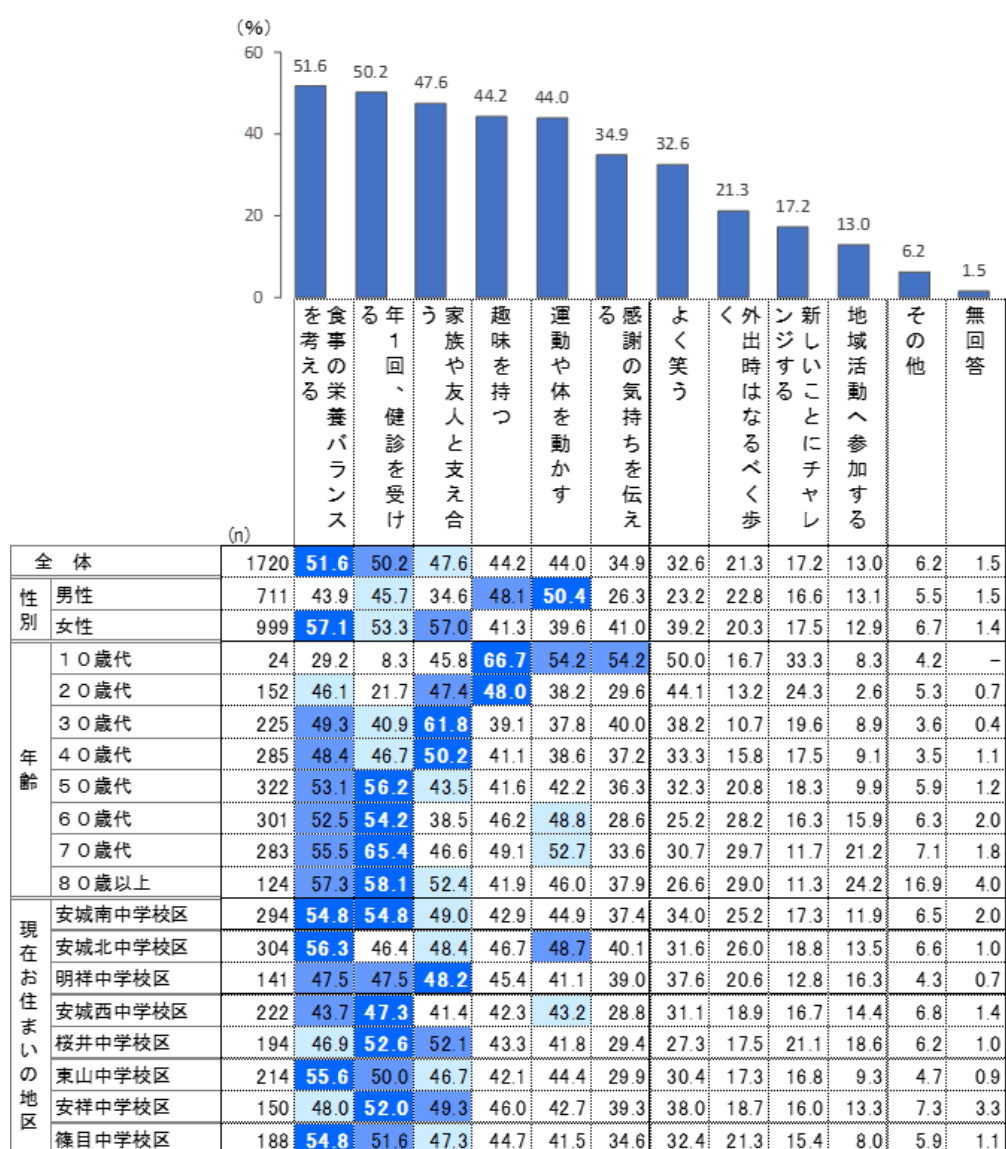
<図7> 「健幸」の認知度 (全体・性・年齢別)

②「健幸」のために普段から心掛けていること

普段から心掛けていることについて、全体でみると、「食事の栄養バランスを考える」が51.6%と最も高くなっており、次いで「年1回、健診を受ける」(50.2%)、「家族や友人と支え合う」(47.6%)となっています。

性別でみると、男性は「運動や体を動かす」(50.4%)、「趣味を持つ」(48.1%)、「年1回、健診を受ける」(45.7%)、女性は「食事の栄養バランスを考える」(57.1%)、「家族や友人と支え合う」(57.0%)、「年1回、健診を受ける」(53.3%)の順となっています。

年齢別でみると、10歳代・20歳代では「趣味を持つ」、30歳代・40歳代では「家族や友人と支え合う」、50歳代～80歳以上では「年1回、健診を受ける」が最も高くなっています。



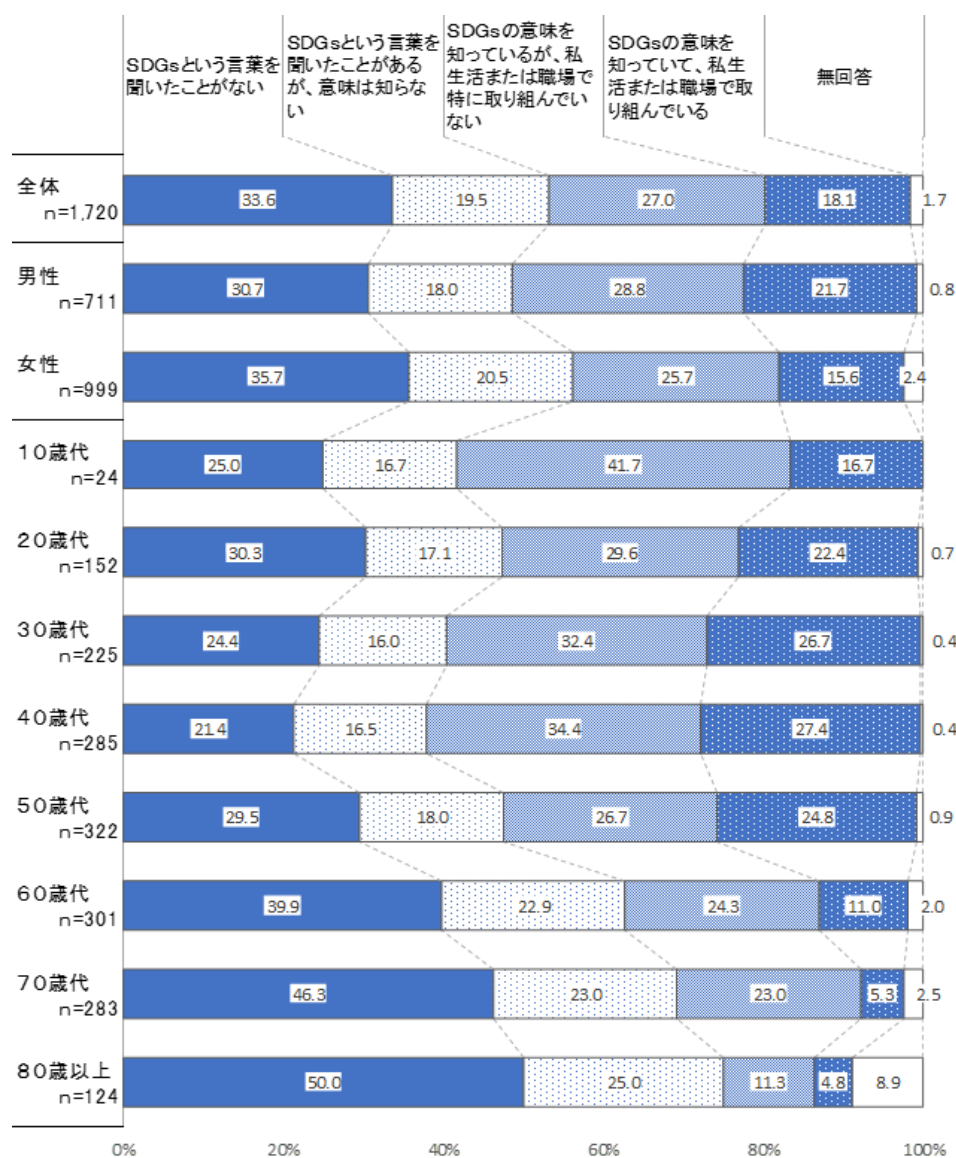
＜図8＞「健幸」のために普段から心掛けていること（全体・性・年齢別）

③SDGsの認知度と取組み

SDGsについて、全体で見ると、「知っている」（「SDGsという言葉聞いたことがあるが、意味は知らない」＋「SDGsの意味を知っているが、私生活または職場で特に取り組んでいない」＋「SDGsの意味を知っていて、私生活または職場で取り組んでいる」）は64.6%、「SDGsという言葉聞いたことがない」は33.6%となっています。

性別で見ると、「知っている」は男性が68.5%、女性が61.8%となっており、男性の方が女性よりも高い割合となっています。

年齢別で見ると、「知っている」は40歳代が78.3%と高くなっています。一方で、50歳代以上では、年齢が上がるにつれて「知っている」割合が減少する傾向にあります。



<図9>SDGsの認知度と取組み（全体・性・年齢別）